

「異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業」
研究成果報告書

研究テーマ（領域）名		人文工学の方法による人文社会科学の実質化		
研究総括	所属機関	東京工業大学		
	部局	大学院社会理工学研究科		
	役職	教授	氏名	往住 彰文
委託研究費		単位：千円		
平成21年度	平成22年度	平成23年度		
3,100	3,300	align="center">3,300		

<p>研究の概要</p> <p>研究目的： 文学をはじめとするテキストの研究を人文工学の方法によって革新し、人文・社会科学が主観的解釈の無限ループから抜け出して、科学的事実の蓄積の学へと実質化することができるように方向づけることが目的である。具体的には、本研究は、テキストの学術的な分析を支援する各種の人文工学ツールを提供することをめざしている。</p> <p>研究内容と成果： 人文工学ツールは、以下の3つのモジュールからなる。</p> <p>(1)テキスト解析ツール：テキストの計量的分析とネットワーク分析を自動的におこない、グラフ表示をおこなう。現時点で可能な自動的意味分析にもっとも近似する表現である。すでに実用レベルにあるツールを作成し、公開・配布している。また、本研究グループによって、文学、政治、宗教など多様な分野のテキストの分析がすでにおこなわれている。</p> <p>(2)オントロジー・エディタ：単語、概念といったテキストの基本構成要素を蓄積する辞書的なデータベース作成支援ツールである。意味、意図といった高次要素を蓄積対象とすると、テキストの分析結果の集積という意味ももつ。現在、動作可能なバージョンが存在し、検証をおこなっている。</p> <p>(3)テキスト探索ツール：テキストにも含まれる各種の構成要素（単語、句、節、文、意味要素、概念、要点、意図、修辞特徴など）を、他のテキストの構成要素と自動的かつ探索的に関連づける。現在、テキスト分析の結果を参照しながら、設計をすすめている。</p> <p>波及効果： テキストの電子化は、国策（日本国立国会図書館、フランス国立図書館、韓国国立デジタル図書館等）、企業と大学図書館の連合体（Google Book, Amazon, Microsoft 等）、草の根（Gutenberg, あおぞら文庫等）など、多層的なレベルで一挙に進みつつある。この動向に完全に対応する分析ツールを、本研究は提供する。インターネット検索ツールが世界中の Web サイトに対しておこなっているのと類似の機能を、本研究の人文工学ツールは、世界中の全ての書籍、論文、テキストに対して、学術研究に寄与できる水準で提供する。したがって、テキストに基づく人文・社会科学は、一挙に爆発的な規模のデータに基づく論証が可能となり、革新的な段階に入ることになる。</p>
--